

“多発性骨髄腫における染色体異常と予後との関連” 研究への  
ご協力をお願い

■ 研究の対象

2008年1月1日～2017年12月31日までに当院で「**多発性骨髄腫**」の診断を受けられた患者さん

■ 研究の目的・方法

多発性骨髄腫の予後は新しい薬剤の登場によって劇的に改善されてきているが、依然として多くの患者さんは再発し死亡されます。これらの患者さんの予後についての層別化はこれまでは International Staging System (ISS)が広くおこなわれており、また最近では Revised ISS (R-ISS)が提唱され染色体異常や血清 LDH 値を加えることにより、より正確な予後判定が行われることが期待されています。

しかしながら、ISS 自体は新規薬剤登場前の治療による予後効果判定であり新規薬剤が導入された今日において有用かどうかについては十分な検討がなされているわけではありません。一方 R-ISS 自体は対象患者数が 4445 人ときわめて多くの患者さんを対象として検討された予後層別化の方法ですが、その多くは臨床試験に登録された患者であり、また年齢の中央値は 62 歳と主に若年の骨髄腫患者さんについて検討されたものであり、現実の骨髄腫患者の年齢の中央値が 72 歳前後であることを考慮すると実臨床との乖離は明らかであると言わざるを得ません。今回私たちは一般病院における骨髄腫患者さんについて ISS, R-ISS による予後解析が実臨床の上で層別化に有用であるかについて検討することを計画しました。

■ 研究に用いる試料・情報の種類

診療記録：病歴、画像、染色体 FISH 検査結果血液生化学検査結果、治療歴 等を用います。これらのデータを用いて ISS, R-ISS が患者さんの予後を実際に層別化するかについて検討します。

■ お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記のご連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。

また、試料・情報が当該研究について、患者様もしくは代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象者といたしませんので下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることは一切ありません。

国立病院機構岡山医療センター

血液内科 角南一貴

電話： 086-294-9911(代)